

放送大学 石垣キャンパス 学生新聞

■発行所・編集人
放送大学石垣キャンパス学生会
〒907-0013 石垣市浜崎町3-4
■発行人 広瀬 今日介
連絡 070-5534-9533
日本一大学生の多い島に

放送大学石垣学習室の 発展に期待する

《放送大学沖縄学習センター前客員教授 徳松信男》
放送大学石垣学習室は昨秋石垣市立図書館の2階から石垣港ターミナルビルの2階に移転することができました。期成会の皆様、グルクン塾の皆様、長年のご努力が実り、石垣市長の数年來の公約実現というところで喜ばしい限りです。これまでの図書館内と違い自由に語り合え、時間的にも長い利用が可能になり、駐車場にも困らないなどで学生の利用や、課外活動、サークル活動、学生相談や学生募集活動にも大いに活用されると思います。また放送大学石垣学習室が主催する講演会なども使われて広く市民に親しまれる高等教育機関の場になってほしいものです。放送大学サテライトスペース期成会の一員、客員教授、そして一学生として私は数年間放送大学と関わりを持ってきました。定年後に八重山に来

る以前には放送大学のことはほとんど知らなかったことを思えば放送大学を通して大きな人の縁に巡り合え、大学で学ばなかつた特に自然科学系の科目を履修していることも世界に目を向ける大きな刺激となり、楽しみが増えたと思っております。放送大学は中卒でだれでも大学生になれるという離島県沖縄のうちでも離島の多い八重山の向学心あふれる方々には本当に素晴らしい教育機関です。沖縄本島や、東京、静岡県でも時間的、経済的理由で大学教育を受けられなかつた方々や、大学教育を終え、中には大学院を終えた方、定年後に興味の一環として放送大学の学生として勉強に励んでいる多くの方々にお会いする機会がありました。そうした人々との出会いの中で私は見や刺激も得ることができました。



大学の授業はテレビ、ラジオ、インターネットなどの媒体によって行われるので全国どこに住んでも通学や、授業料などでハンデはありません。面接授業などは地元石垣市のみならず沖縄本島や他府県に出かけて行って受けることも可能です。石垣での面接授業では昼食時に、東京、九州や本島から来た若い男女の学生たちに交じってわいわい言いながらレストランに行ったりしました。沖縄学習センターでの農学や、コンピューター関連の授業では、なんと自分の高校時代の友人がクラスメートになるという何十年ぶりかの出会いがありました。また拙宅でのパーティーに本土からの何人かの学生たちにも来ていただいたことなども楽しい思い出になっています。放送大学は誰でも大学生になれるという貴重な機会を提供してくれ、これが継続していくことは忍耐強い努力が必要です。そのためにはお互いに助け合い、気心の知れた友人や、共通の趣味を持つ仲間がいることが大きいな支えになることだと思います。沖縄学習センターでの卒業式に何度か参加する機会がありました。毎回琉舞クラブのメンバーの学生による素晴らしい琉舞が披露されたのが印象に残っています。今般放送大学石垣学習室で機関紙が発行され、クラブ活動の企画もあるとのこと(広瀬さんより)依頼された原稿をしたためました。機関紙の発行とクラブ活動の立ち上げなどにより放送大学石垣学習室が市民に広く知られ、石垣市における大学教育の中核としてますます発展していくことを心から祈念いたします。

◆2学期生の募集開始

放送大学の2015年度第2学期(10月入学)の学生募集が始まりました。周りに放送大学に関心をお持ちの方がいらしたら、入学をお勧めください。

入学希望の方がいらしたら、平野にご連絡ください。

募集要項の請求、放送大学や入学の仕方についての質問などもどうぞ。

◆学習室

石垣港ターミナル2階の学習室に、毎週火曜日の16:00~19:00(原則)、平野が駐在します。ご相談、ご質問、雑談に応じます。また、パソコン、ネットワークの使い方の初歩の指導もします。事前にご連絡ください。

沖縄学習センター客員教授 平野秋一郎 090-8440-1055

中国語サークル

メンバー募集

中国語を学習している皆さん、石垣学習室に集まりませんか。

●7月12日(日)14:00-15:30
現在学習中の方はもちろん、以前に学習していた方も、または中国語に興味のある方も歓迎です。宜しければ事前にご連絡をお願いします。
070-5534-9533 広瀬

人に貴賤はないが
勉強したかしないかの差は大きい



福沢諭吉(ふくざわ ゆきち)
1835年(天保5年)1月10日-1901年(明治34年)2月3日
『学問のすゝめ』の著者

【編集後記】学生の皆様、はじめまして。このたび『石垣キャンパス学生新聞』を発行することになりました。この新聞は放送大学石垣キャンパスの学友として共に学ぶ皆様、学習する楽しさや喜び、あるいは苦労や悩みを抱えながら学問する実情を共有することで、いづれかでも学生ライフの充実や学習環境の改善向上に貢献できることを期待しています。学生の皆様よりの忌憚なき感想やご意見をお寄せくださるようお願いいたします。最後にこの場を借りまして、本発行に際してご尽力ご協力をいただいた皆様に深く御礼を申し上げます。(編集人 広瀬今日介)